

最上地域の「道の駅」検討状況について

(これまでの経過)

- 平成29年2月28日：第1回最上地域の「道の駅」勉強会
 - 平成29年3月15日：第1回最上地域の「道の駅」検討会
 - 平成29年5月上旬：第1回市町村アンケート調査
 - ・市町村の課題と対応、観光・地域資源、既存施設の利活用、連携施策等の調査
 - 平成29年6月2日：第2回最上地域の「道の駅」勉強会
 - ・アンケート調査に基づき、【最上地域の「道の駅」ネットワークたたき台】検討
 - 平成29年6月中旬：第2回市町村アンケート調査
 - ・ネットワークたたき台への意見聴取
 - 平成29年6月30日：第3回最上地域の「道の駅」勉強会
 - ・【最上地域における「道の駅」ネットワーク構想（たたき台）】検討
 - 平成29年7月24日：第2回最上地域の「道の駅」検討会
 - ・【最上地域における「道の駅」ネットワーク構想の方向性】検討
- (川のみなど「長井」の事例紹介)

最上地域 共通の課題

- ・ 過疎化、少子高齢化、若者流出等による人口減少
- ・ 高速道路等の利活用、交流人口拡大、雇用創出
- ・ 小学校廃校等既存施設の利活用

最上地域 対応の方向性 (案)

最上地域 1市 4町 3村の地域振興を図るため、地域住民へのサービス提供や圏外からの誘客促進などの機能を有する拠点として道の駅を整備し、各道の駅が**効果的に連携・補完**できるよう、**最上「道の駅」ネットワーク**を形成する。

⇒ 全駅の連携方向 (効果増進)

- ・ 特産品の情報発信・開発・観光情報発信・住民サービス提供
- ・ 防災機能の共有・交流・連携策の共有

⇒ 各駅の独自方向 (魅力増進)

- ・ ゲートウェイ型 (広域情報発信) 又は地域センター型 (地域福祉) に特化
- ・ 地域連携施設 (文化教養、温泉、集会所など) の独自性
- ・ オリジナル商品販売・近隣民間施設との連携



最上「道の駅」ネットワークの方向性 (案)

1. 産直施設のネットワーク化 (産業振興)

- ① 各駅の優れた特産品、伝承野菜等の情報ネットワーク (商品・販売時期・レシピの紹介、イベント情報の提供などの共有)
- ② 地域オリジナル商品の開発共同化 (オリジナル商品の共同開発・販売、ブランド化、加工施設の共同化など)

2. 観光情報のネットワーク化 (観光・インバウンド観光)

- ① 最上地域すべての観光地、イベント情報の発信・提供 (窓口設置による対応、ITによる情報提供、パンフ作成・配布など)
- ② インバウンド観光の共同化 (コンシエール・通訳サービスの共同提供、パンフ作成・配布など)

3. 住民サービスのネットワーク化 (地域福祉・交通結節点・地域移住)

- ① 公民館・集会所機能の共有 (イベント会場、子供の遊び場、若者交流の場の共有、リレー化)
- ② 高齢者福祉サービスの共有 (宅配サービス、移動販売・集荷、安否確認等の拠点としての共有)
- ③ 地域交通の結節点としての共有 (病院、駅、役場等への循環バス停としての共有)
- ④ 移住相談窓口のネットワーク化 (移住相談、空き家情報の取り次ぎ窓口・情報提供、パンフ作成・配布など)

4. 防災機能のネットワーク化 (防災拠点)

- ① 広域的な避難所として共有 (他市町村も含めた避難者受け入れ施設、ヘリポートとしての共有)
- ② 備蓄基地として共有 (食糧、支援物資の備蓄、集配基地としての共有)

5. 交流・連携のネットワーク化 (交流・連携)

- ① イベントの共有 (体験ツアー、交流会等をリレー方式で開催、スタンプリレー企画など)